国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説　3巻』　請求記号　特7-208
ガラス使用
特7-208

特別 特7—208

帝國圖書館藏書

治田山銀礦諸説

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208

ガラス使用

一

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

鍵掛場

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

馬の尾粉

一 右馬の尾粉のごとく通
ずるときは人命を救ふ 稲小 洗
手粉のごとく 稲 もみのごとき粉
の色ふたたび 又 多くの牛
荷を駄荷にて 上方 の稲 粉よ
もろこしを馬の尾のごとくに
砕を粉にして 洗粉 にて 百揚
ずるときは 百揚 中毒 粉
かり 先日 洗 ふたたび 書

こしまきにて 洗粉 にて 洗粉
粉のごとく 粉 にて 百揚 湯
粉 上方 粉 中 生 馬の尾
ちまのごとく 粉 ふるひ 洗粉
粉 ふるひ 洗粉 にて 百揚
粉 ふるひ 洗粉 にて 馬の尾
粉 ふるひ 洗粉 にて 百揚 馬
の粉 雪 ふるひ 洗粉 にて 百揚 馬
を雪 時 洗 ふ 馬の尾粉
粉 ふるひ 洗粉 にて 百揚 馬
粉 ふるひ 洗粉 にて 百揚 馬

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208
ガラス使用

金ヲ取ル事也 翌日銀鉛ト混ト極ニ加ヘ溶解
灰吹ニスル時ハ極ニ在テ銀鉛ト混ト溶解
灰吹中 混ハ灰ニ吸レ一ツニ成テ上ニ残ルハ石掃シ出
以テ取ル事也 唐択ノ前足ヘ入テ択ニ仕也
也 近年ノ灰吹ノ鉑ハ晏宮村ヘ飛尼ト仕ル
小荷ヲ三度ニ宛ヲ付ケ見ル所 以テ割ル時ハ萩子
形ニ成テ石掃ニ合テ焼鉄掃ヲ也
吹ル石掃ヘ入テ鏈ヲ見テハ唐択ヘ入テ択
ヲ取ル 其上天ノ方キテ鎔シテ宝性寺ヲ

一

極灰ノ事

混極ノ鉛銀ヲ吹クノ本文ハ加ヘテ木炭ノ赤目ノ
ヲ吹テ一寸吹入セ其上紀ケ方ニテ三ヲ吹ト為置
在度ノ間ニ目鋲ヲ置置テ唐ニテ撹混ス
鉛ノ赤鋼鉄極ヲ入ルニ混和シ先ヲ取テ混鉛ヲ入テ小殺
銀ヲ云フノ混混正又中極掃ト云フ 混正ト云
風ヲ吹テ鉄鏈ヲ極ノ赤ノ方ニ混鉛ヲ是ヲ鏈ヲ
掃ト云フ 其ヲ極液ト 其ノ中ニ列テ切着有レバ
銀ノ混テ仕上ゲル時ハ極鋼ト云フ其ノ中ニ入レ荷ヲ吹ヲ

国立国会図書館 タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208
ガラス使用

しては日の字法也 是ハ字名ハ自然ニ梅鉢を始法
如此の形を振る鱼乾時ニ出之ニ依て是を全振の形
となし毎月日金銀鉑位吹大を成る揮物ニ
拵家様ニ而字名を当たりん 鉑ニ而毎日掃除居場
者の始ニ而梅鉢を合形ニ置十日と日書をして
字石と梅鉢を連ねる金銀吹分を納る拵梅鉢
八字名の日月同前ニ其の吹日か成ぬ毎年
正月十五日字名ニ而梅鉢を同前拵へ神前ニ備へ置也

一 鉑之流之事

鉑ニ一ト云ハ幡八寸長サ八寸也を大工ニ為持拵
長サ八寸付七寸向ニ本鉑ニ而鉑を中上ニ而拵
と云物ニ其ゟ文金ニ木樋を立て其上ニ掛鉑ニ為と云物
ゆり鉑ニ而乳として八寸余程の鉑を乳大ニ而より其の
細物又ハ梅鉢之上へ水を流し樋より床鉑を
先の上ニ而ゆり宛金樋口の下の鉑を床ニ而掛識
其鉢帯を以流し付法物の余りハ低き床鉑を
先へ流し落法物の有る所ハ本鉑に而留る也

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208　ガラス使用

特
7
3
208

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『治田山銀礦諸説 3巻』 請求記号 特7-208

ガラス使用